

協 会 通 信 ～No. 2～

(2018. 9. 20)

一般社団法人 岩手県中小企業診断士協会発行

目次：会長からのメッセージ	P 1	小笠原会員の寄稿文	P 6
理論政策研修会の報告（土岐）	2	「盛岡タイムス」の記事	7
理事・監事の寄稿文	3～5	経営診断学会の研究発表会	8～11

会長からのメッセージ

会 長 宮 健

会員の皆様、お元気ですか。「協会通信」第1号はご覧いただけただけでしょうか。紙ベースと違って「ネット通信」ですので、ある程度は無視されても仕方ないかなとも思いますが、協会と会員（と言うよりは「会員相互」）のネットワークの一助になればいいなと思っていますので、よろしくお目通し願います。中には、大切な伝達事項もあります。

今回は、8月25日（土）に開催した「理論政策研修」の記事をメインにしました。担当の土岐徹朗理事には、テーマ・講師の選定から、当日の司会進行、さらには開催報告の執筆・編集など、たいへん積極的に取り組んでいただきました。紙面を借りて、心から感謝の意を表したいと思います。

前号で報告しなさいでしまいましたが、6月18日（月）に協会本部の定時総会が開催され、岩手県協会を代表して出席しました。「本部」というのは通称で、正式には「一般社団法人 中小企業診断協会」です。会員は47都道府県の各協会、総会には全国各協会の会長が参加します。来賓として、中小企業庁の長官（または代理者）が参加され、毎年ご挨拶をいただきます。

今年は代理者のご出席でしたが、ご挨拶の中で、「従事実績ポイント制度」の再検討に触れておられたのが印象的でした。今すぐ具体的に・・・ということではなく、庁内でも話題になっているという雰囲気でした。

総会そのものは決算・予算や事業計画の承認など型通りのものです。今年は任期満了による会長の選任があり、新しく東京都協会の米田英二氏が就任されました。米田（まいた）新会長のルーツ（お父上の出身地）が秋田県鹿角市ということで、総会後の懇親会では東北地区の各会長が新会長を囲んで懇談するなど、和やかな雰囲気の懇親会となったこともご報告しておきます。

平成30年度理論政策更新研修の開催報告

更新研修担当 土岐 徹朗

今年度の理論政策研修が開催されましたので、その報告を申し上げます。

1. 開催日時 平成30年8月25日(土曜日) 13:00-17:20
2. 場所 岩手県自治会館
3. 出席者 113名(内32名が会員)と例年よりも多くの方々にご出席いただきました。
4. 研修内容の紹介

新しい中小企業施策について

講師：東北経済産業局産業部経営支援課課長補佐
中村 光一 先生

☆今年度は生産性向上特別措置法に絞って、とてもわかりやすく懇切丁寧に解説していただきました。

1. 生産性向上特別措置法に定められた先端設備等導入計画について
2. 先端設備等導入計画策定の手引きについて
3. 先端設備等導入計画策定の記入例について
4. 先端設備等導入計画策定のQ&A集について

先端設備等導入計画の認定支援機関としての関わり等を通じて、中小企業診断士の皆さんに、この制度の活用を促進していただきたいと思います。



IoTによる生産性向上支援 -強み尖がり経営の薦め-

講師：経営改善研究所所長 中小企業診断士
細野 祐一 先生

☆中小企業のIT活用支援について、事例紹介を中心にエネルギーに講義していただきました。

1. 強み尖がり経営とは？
2. 事例紹介(有限会社朋友)
3. 事例紹介(株式会社富士製作所)
4. 強み尖がり経営の薦め



土台作り(業務プロセス改善)をしてからIT改善をすることが重要ですが、土台作りに関しても、身近な無料診断ツールを活用したり、自前ITツールを作成したりして、期間短縮を計っていくことが大切です。

私たち中小企業診断士は、企業に企業の未来イメージを見せることによって、社長に「わかった」とだけ言わせず、「一緒に取り組みましょう」と言わせることが大切です。

中小商業・サービス業におけるロボット・AIの活用

講師：岩手大学工学部システム創成工学科准教授
金 天海 先生

商業・サービス業を中心に、ロボット・AIの活用ポイントをご紹介します。

1. 時代の後押し(AI, ロボットブーム)
2. なぜ今 AI やロボットが必要とされているのか
3. 株式会社エイシングの紹介
4. Deep Binary Tree (DBT) とは
5. 商業・サービス業での活用具体例
6. 製造業での応用事例

「AIで何か良いことができるはず」とか「AIなら何とかしてくれる」といったように、活用目的を考えない導入の仕方は危険です。
また、AIの導入のコストが導入内容と見合っているかチェックするのが大切です。



ご受講いただいた皆様、当日は大変お疲れ様でした。

近況報告

理事・副会長 山火弘敬

近況をご報告いたします。

商工会議所の会員ということで、毎月会報「さんさ」が送られてまいります。先日9月の会報が送られてまいりました。

この月の特集は、「消費税引き上げまで、約1年」ということでした。

会報の配布と同時に、各種講習会の案内やらパンフレットが同封されて参ります。

その中の一枚に会議所企業支援部主催の「販路開拓・拡大塾」日本人も外国人観光客もよろこぶ盛岡へ～特別でないインバウンド対策～というものがありました。

そしてその講師がトラベル・リンクの代表取締役北田公子さんとなっております。パンフレットの下に参加申込書がついており、早速作成し会議所あてに受講の申し込みをしました。

北田さんは旅行会社に勤務の後独立開業されたかたで、私は北田さんが主宰する旅行会社の八幡平のバスアーツや冬の西和賀のツアーに夫婦で参加させていただいております。

われわれ高齢老人にとりましてもまことに気配りのある充実したツアーで、毎回楽しく過ごさせていただいております。

最近従業員を増やし体制整備を図られたとか。旅行業として充実したものとなってきております。

北田さんの強みは、観光地の選定に当たって地元市町村・商工指導団体などとの連絡体制がすばらしいことです。観光地を所管する諸団体との連携は密接であります。

事業の発展のため、今まで以上に緊密な連携を心掛けていただきたいと思います。

今後、ますます旅行事例を積み重ね、いたずらに規模の拡大を志向されることなく、着実に実績を積み重ねてください。

盛岡商工会議所での講演を楽しみにしております。

以上

私の履歴と近況報告

監事 齊藤静夫

診断（士）協会に加入したのは、県職員を定年退職した平成 16 年ですから、古参ではありません。しかし中小企業診断士の資格を取得したのは昭和 52 年であり、古株といえます。企業診断ニュースに登場する診断士は平成の取得者が殆どであり、岩手県協会も 40 代、50 代の若者が増え、頼もしい限りです。

退職後は、事情もあり全くフリーの生活で、唯一の仕事は家庭菜園づくり。あまりにも暇なので労働機構主催のセミナーの常連客となり、同窓生の選挙応援、同窓会事務局も。平成 17 年、現役の助力で中小機構のアドバイザー、公共の宿泊施設のコンサル、そして平成 18 年、宮会長のお世話で非常勤監査役（長くなったが監査役は今も）に、などなど。私がよく通う居酒屋のトイレ（清潔感抜群です）に「私のお店に通ってくださるお客さまに感謝、感謝」の一文がある。私もお世話下さった皆様に同様の気持ちでいっぱいでありたい。また昨年からは社会福祉法人の監事もお世話いただいた。これが近況です。

退職したら過去の経歴と全く関係ないとよく言われますが、それは肩書であって、診断士経験者は良くも（悪くも？）連動していると思います。

昭和 42 年県庁入庁、49 年から 62 年まで 14 年連続、商工労働部経営指導課勤務、特に小川庄一郎氏（大学の大大先輩）の薫陶を受けましたし、何よりも優れたリーダーシップと先見力を有する経営者に出会い感動を受けました（特に協ベルや ESC などは組織の成長とともに経営者自身も全国に誇れる先達・賢人に成長）。平成 11 年経営金融課長の時、これまでの中小企業指導法（昭和 38 年制定）が改正され、中小企業支援法となり、都道府県も指導から支援する体制に転換されました。プロの経営者に対し「上から目線」の指導という言葉にはいささか抵抗がありましたから、遅きの改正と思いましたが、当然の措置と言えましょう。県庁時代は、山火副会長の後塵を拝しながらの人生で、深く感謝しております。

私の退職時から体調のすぐれなかった伴侶が平成 20 年逝去し、人生も一変しました。諸般の事情から、26 年 3 月、中小企業庁に登録削除申請、担当者から休止届に変更せよと自宅に電話あり、平成 30 年の現在となっております。これにも感謝です。

後期高齢者入りした今、皆様に迷惑をかけながら（？）出来ることを見出しつつ、歩んで参ります。宜しくお願い致します。

以 上

あの日、あの頃、よもやま話

(中企業診断士・販売士1級・消費生活アドバイザー) 監事 山口唯夫

そう、森昌子の「先生」が大ヒットしていたあの日あの頃。私は某都立商業高校で非常勤講師をしていました。あれから40年、車のデザインと同じで、つくづく私も丸くなったと思います。そこで資格に係る思い出話を2つ3つ。上記高校の教頭先生は機会あるごとに、生徒に対し「取れる資格は取れる時に取っておけ」と話していました。先生は商科大学出身なので当時は申請さえすれば今や難関といわれる国家資格も取得できたそうです。ところが、誰でも取れるような資格なんかいないと放ってしまったことを、ずっと悔やんでいたのです。

そこで私たち講師3人は、生徒たちにまずは身近な簿記の資格を取らせようと考え、取りたい人は自分の机と椅子を持って講堂に集まれと声掛けをしました。そうしたところ、何と100人以上の生徒がゾロゾロと集まってくるではありませんか。何が楽しいのやら、そろばんをカチャカチャさせ、放課後とはいえ、すごく賑やかでした。合格者も例年より多かったそうで大成功でした。内緒ですが、この日のため、「ハク」をつけるため、私は必死になって日商の簿記1級と税理士の簿記論に挑戦し、何とか合格できました。これが自分自身資格に本気で向き合った最初の出来事だったと思います。

余談ですが私はこの勢いで講師を募集していた某経理専門学校に応募し面接を受けました。担当官から「3級の講師なんかやめた方がいい、自分の力にならない。やるなら1級の講師で頑張ってみろ、会計士、税理士の卵がウヨウヨいて厳しい質問も飛んでくるから勉強にはなるぞ」と言われビビりました。それまでは先生呼ばわりされ少し調子に乗っていた私は、先生と呼ばれるにはそれなりの高いハードルを越えなきゃ本物にはなれないこと思い知らされたのです。

経理専門学校の講師採用と田舎の父親の病気にかかったのがほぼ同じころでした。私は迷わず帰郷し家業を継ぐことにしました。商業高校で「経営」と「文書実務」を教えたことや大学、国家資格予備校で学んだ「経営」が家業のお菓子屋の経営にも生かせないかといろいろ考えていたところ、中小企業診断士という資格があることを知りました。当時県内ではまだ合格者も少ないということも挑戦意欲を掻き立てました。これに合格するや、当時の県の課長、中小企業振興公社の室長からのお誘いもあり、30代にしてサラリーマン生活を始めることになりました。

後に、診断士試験に情報部門ができたのですが、上司からは「商業部門を取っているから免除科目もあり楽勝だろう」と調子のいいことを言われ挑戦することになりました。2度目で何とか恰好がつかいましたが、正直、情報、特に情報技術は専門でなかったので悪戦苦闘でした。0と1の世界には入り込みたくありませんでした。幸い、一緒に東京の予備校まで受験勉強に行っていた某澤田さんに「コンピュータなんか足し算、引き算、掛け算、割り算と並べ替えさえできればなんてことないぞ」と教えられ本当に助かりました。試験当日青山学院周辺は局所的土砂降りです。テニスをやっていた女の子達がずぶ濡れになって、ベンチに駆け込んできました。その光景たるや、何にも代えがたいものでテンションが一気に上がり試験問題もスラスラ解けたという記憶が今でも鮮明に脳裏に焼き付いております。・・・おととと、格調高い会報ですから今回はこの辺で。

やまなか家いわき泉店訪問記

小笠原 義知

やまなか屋盛岡大通店はいつも実践診断士の会でお世話になっておりますが、その元店長である駿河さんが、初代店長として赴任した「やまなか家いわき泉店」を、3月17日に訪問してきました（昨年宣言通り）ので、その概要を報告します。

8:00 マイカーで盛岡を出発、盛岡南ICから東北自動車道に乗り南下、途中富谷Jctから仙台北部道路、仙台東部道路を通り常磐道に入りました。（常磐道は初めての経験、道路標識に放射能の表示板があるのに驚きました。当日最大数値は3.1マイクロシーベルト）

いわき湯本ICで降り、11:30 スパリゾートハワイアンズに到着しました。（前日ローソンで



割引チケットを¥3,330で購入) 13:30~14:20のポリネシアン・サンライトカーニバルを鑑賞したり（事前に¥1,050でSS席…ダンサーとの撮影権付を予約）、プールにつかる等して時間を過ごし、17:00出発でホテルルートインいわき泉駅前にチェックイン（朝食付き1泊1人¥8,300）

やまなか家いわき泉店はホテルから5分ほどの場所にありました。ここは新しく開発された地域と思われ、店もショッピングモールの中でした。お客さんが外まで溢れる状況でしたが、小田島さんをお願いし事前に18:00から予約をしていたので、待たずに席に着くことができました。客席数110席とのことで、入り口からテーブル席が並び、奥に靴を脱いで入る部屋があり、半々の割合かなと思いました。開店祝いですから普段の倍の客単価でおいしく焼肉をいただき、19:30代行運転でホテルに帰りました。

翌日は7:30ホテル出発で、水戸の偕楽園（水戸北スマートICで降りるつもりでしたが、東京方面からの専用で利用できませんでした）、大子町の袋田の滝を観光し、19:30に自宅に到着しました。



駿河店長と私



経営、デザイン、金融の専門家が事業者の相談に応じる様子

強み生かして大きく稼ごう

中小規模事業者
中小企業

県よろず支援拠点 （いわて産業振興セン） 経営改善の実績増やす

盛岡市北飯岡のいわて産業振興センターを実施機関とする、中小企業庁管轄の無料経営相談所「岩手県よろず支援拠点」が6月で、活動5年目を迎えた。売上拡大、経営改善、事業承継など、小規模事業者・中小企業が抱える課題の相談を、現役の経営者や専門家らで多面的に支援。年間約2千件の相談を受け、これまで約650社の課題を解決に導いた。その支援内容は全国的に高く評価され、来年度以降の活動も期待されている。

国の小規模企業振興支援法の下、2014年6月に同庁が各都道府県に1カ所ずつ設置した拠点。岩手は、開設から16年度までに5113人が相談に訪れ、北海道・東北地区ではトップの実績。リピート率は1人2.5〜3回と全国3位となっている。稼働率相談

件数も極めて高く、全国3位の数値。支援先や内容は拠点ごとに異なり、岩手は既存の経営支援団体の支援が行き届きにくい、小規模事業者をメインターゲットに活動してきた。「小さな会社の『稼ぐ力』を大きくし、民間のノウハウ

を持って確実な利益につなげることを目指してきた。現場の最前線に立っている有望な専門家を集め、今の市場に対応する有力なノウハウを供与。経営や財務、金融、商品開発、ブランディング、雇用・

盛岡市の吉田建設（従業員15人）は、学生の下宿が多いパンシヨンの入居率を上げるため、築年数が長い建物を改修するか、相談

をめぐって、労働などの専門家13人で多面的な支援を続けている。地銀や信金自治体なども連携し、合同相談会などから支援の輪を広げている。

支援の共通項は「平均点では戦えない。弱点補強ではなく、既存の強みを生かすこと」。各事業者が顧客から選ばれている点を抽出して強化する支援を定め、多数の経営改善、利益拡大を実現している。

星野剛チーフコーディネーターは「世の中の変化に対応しながら挑戦しようとする小規模事業者はたくさんいる。商工団体など外部機関との連携を広げ、そつした事業者の潜在的な強みを伸ばしていきたい。それが地域の経済力の強化につながる」と話している。

（従業員3人）は、ラ

イターで簡単に火がつき、火花や煙のない炭「ほこたん」の販売不振を相談。特許取得したものの固定費がまか

なえず、廃業の危機となっていた。既存顧客の中から、競合が少なく安定した納品ができる茶道教室に顧客を絞

平成 30 年 9 月 18 日

日本経営診断学会
東北部会会員 各位

平成 30 年度 日本経営診断学会東北部会 研究発表会
発表者募集について
～岩手県中小企業診断士協会と共催～

東北部会長
宮 健

前略 日本経営診断学会東北部会は、一般社団法人岩手県中小企業診断士協会との共催により、下記のとおり「研究発表会」を開催することとしました。東北部会会員の皆様には、日ごろの研究成果を発表する機会として積極的に参加されるようご案内申し上げます。

記

1. 開催日時 平成 30 年 11 月 10 日 (土) 14 時～17 時 (予定)
2. 開催場所 岩手県立大学アイーナキャンパス (盛岡駅から徒歩 3 分)
アイーナ 7 階 学習室 1 (昨年と同じ部屋です)
3. 開催要領 発表者 (学会会員及び診断士協会会員 5 人を予定) による研究発表会とする。発表時間は各自 30 分間 (5 分間程度の質疑応答時間を含む)。
4. 発表者募集 東北部会会員 (診断士協会会員については別途案内する) から発表者を募集する (テーマは自由)。
発表希望者は別添の用紙に必要事項を記入のうえ、10 月 10 日までに申し込むものとする。
<送付先>
020-0693 岩手県滝沢市菓子 152-52
岩手県立大学ソフトウェア情報学部竹野研究室
日本経営診断学会東北部会事務局 (植竹 行)
<FAX> 019-694-2699
5. 参加者募集 発表会のスケジュール等が固まった時点であらためて案内する。
6. お問い合わせ <電話>019-694-2644 <E-mail> uetake@iwate-pu.ac.jp
※発表会終了後、懇親会を開催します。会場は大通地区、会費 3,000 円 (予定)。

草々

いわて県民情報交流センター（アイーナ）の周辺マップ



東北自動車道盛岡 IC から
約 8 分、駐車場は有料駐
車場利用（無料駐車場は
ございません）



盛岡駅から
東西自由通路（2階）よ
りマリオス前を通り、横
断歩道を渡る。
エレベーターで7階へ

平成 30 年 月 日

日本経営診断学会東北部会
事務局御中

研究発表希望者申込書

発表希望者氏名	
所属・連絡先等	Tel : Fax : Eメール :
研究発表テーマ	
発表要旨	
その他	懇親会に 参加する 参加しない (どちらかに○をして下さい)

日本経営診断学会東北部会との合同研究発表会
～発表者並びに発表会・懇親会へのお誘い～

当協会の恒例行事の一つである標記発表会が、前3ページのとおり開催されることになりました。この発表会は、当協会の「30年度の事業計画」の中にも盛り込まれていますので、多くの会員の参加を希望いたします。また、企業経営に関わる研究(自分の仕事の紹介などでもOK)について発表(所要時間30分)を希望される会員を募集いたしますので、希望者は会長にご相談ください。会員あての正式な案内状は、タイムスケジュールが固まり次第あらためてさしあげますので、その際に参加希望者はお申し込みください。

なお、当日の基調講演を、(株)情報システム研究所社長・金澤闊郎氏にお願いしております。同氏は以前にも当協会の勉強会で「元気のでるシステム」の開発について講演をお願いしたことがあり、ご存知の方もおられると思います。テーマは「進化を続ける『元気のでるシステム』」(仮題)です。同システムは、現在の(株)ベルジョイスの会計処理システムの開発が原点であり、その後も多くの企業の発展に寄与しております。

発表会は主として県立大学の先生方や大学院生などが担当されます。新しい知識の吸収にもなりますので、多くの会員の聴講を要請いたします。

発表会終了後、恒例の懇親会も開催されます。(参加申込は後日募ります)

【編集後記】

8月に続き2カ月連続の発行となりました。

今号は、8月25日に実施した「理論政策研修」の報告と、前号積み残しの理事・監事からの寄稿を中心に編集しました。

小笠原義知会員の寄稿文は、3月に「いわて実践診断士の会」で同会員から報告された際のレジュメにもとに、「会長通信」用の原稿として執筆していただいたもので、約半年前にお預かりしたままになっていました。今回あらためて「協会通信」に使わせていただくことにしました。小笠原会員は、実践診断士の会の例会でお世話になっていた「やまなか家」大通店の前店長がいわき店に転勤されているので、「いわき旅行」の際にお寄りしてきたということです。駿河店長もさぞ喜ばれたことと存じます。友情を大切にしたいなと思った次第です。こういう身近な体験談など、寄稿をお待ちしています(原則A4版1枚)。

「盛岡タイムス」の記事は、「岩手県よろず支援拠点」の紹介記事です。星野剛会員(チーフコーディネーター)の活躍ぶりの一端をうかがい知ることができます。

10月20~21日に実施予定の陸前高田・大船渡視察研修会も1カ月後に迫りました。事務局の工藤伸一理事・高橋庄平会員にご負担をかけますが、有意義な視察研修になるよう最善の準備をお願いしたいと思います。

(宮)